2011.12.18～2012.1.16　Mt.Cook 遠征　　渡邊　大三

入山期間 12/29～1/7（10 日間）

目標は Newzealand　Southern　Alps の…
①Mt.Cook(3754m）East　ridge　（Grade4）
②Mt.Tasman(3497m）Balfour　Face　（Grade6）
③時間があれば Mt.Dixon(3004m)の Central　gully　（Grade4）

人員：L：AOYAMA　TAKAHIRO（aoni）　M：WATANABE　DAIZOU

移動・装備・食品・小屋・氷河の状況・事故・天気など

〇移動

Mt.Cook の玄関口となるのは Mt.Cook　Village。クライストチャーチからは法定速度で運転して 3.5hr。今回はパートナー青山の休暇が少ないので時間節約のためレンタカーを借りた。Christcharch からはバスなど結構あるらしい。Mt.Cook　Village からはヘリコプターかスキープレーンで各山小屋へ移動できる。ヘリを使わないで小屋へ行く場合は歩いていける(walkin)。今回はクレバスが開いていたのでスキープレーンは飛べずヘリでの移動となった。料金は約 700NZD÷乗員数である。（乗員数は MAX５人）

帰りも同じ料金。当然乗りあわせで行くと安くなる。
予約は Mt.Cook　Village　の DOC(Department　of　Conservation)で出来る。登山届けを提出するときに一緒に予約するといい。

〇食料

Mt.Cook　Village の食料品売り場はハーミテージホテル(高級ホテル)の１階にあるだけで品物もないし割高。入山前に Christcharch の「New　world(スーパーマーケット)」で購入して揃えた。行動食は「OSMバー」がカロリーもあり良い。

〇装備

外套は上下雨具。日中は暑いのでレイヤリングの工夫が必要だ。夜になると冷え込む。靴はシングルブーツで行ったが、２人とも長時間行動と夜の寒さのせいで親指がj軽い凍傷(血行障害・神経障害？)になった。だがダブルブーツで行くと暑いと思う。

クライミングギアはスノーバーを合計４本持っていったがとても有効だった。トライカム・ナッツ類も有効だった。スクリューも必携。Mt.Cook　Eastridge には６本持っていたが丁度良い本数だった。日差しが強く、日焼け止めクリームは SPF85+を使用し、リップクリームも塗り捲った。

〇小屋(Hut)

Plateauhut という小屋に泊まった。一泊 36NZD、高い。DOC へ下山届けを出したときに料金徴収される。2005 年に建て替えたらしくプロパンガスバーナーがついており、快適。水は雨水を溜めたタンクがある。30 人ほど収容できる。

〇氷河

年々状況が悪くなっているらしい。１０年前はベストシーズンは 1 月だったらしいが、現在は 11 月後半～12 月前半だという。

〇事故

滑落死、凍死、セラック崩壊・雪崩れによる圧死。2003 年と 2008 年には日本人も死んでいる。天気が荒れると２～３日は悪天が続くことが多いようだ。

〇天気

NWの風は低気圧とともにやってくることが多く、Sの風は高気圧を呼び込むことが多い。即ち、悪天→北西風、好天→南風。天気は小屋で 1900 の無線交信時に聞ける。

以下、記録。

12/28　Christcharch 空港→Mt.Cook Village

1230Christcharch 空港へ Aoni を迎えに行く。空港駐車場は料金が高いので Antarctic　Center 無料 P へ停める。Aoni の行動食を Newworld で購入して Mt.Cook Villedge へ。途中 Mt.Cook が見えてきた。デカイ。2200Cook　Village 到着。キャンプサイト探すが暗くてなかなか見つからない。Hooker　Valley の　Whitehorse camp(村から車で 2～3 分)で 2230 幕営。

12/29　Mt.Cook　villedge→Grandplateau へ。

ミューズリーを食い 0900 にDOCへ今年はクレバスが開いていて、スキープレーンは飛べずヘリだけ飛べるそうだ。乗員は5人まで。料金は 704NZD÷人数+α だそうだ。帰りも同じ計算で。計画書をDOCへ提出し、飛行場の場所・フライトを確認したあとハーミテージホテル(高級！)のラウンジで Aoni おごりでミンスパイを食う。少し歩いて周辺を観光する。

1600 ヘリで出発。「ヘリが飛んだら半分成功みたいなもんだ」 と aoni。結構風があるのに飛ぶんだな～と感心してしまう。８人を４人×２回のフライトで 177NZD/1 人。Glandplateau 氷河へは 10 分ほどで着く。途中 Mt.Cook も見える。デカイ。氷河の状態も見えるがパクパク開いている。小屋に到着したら目指す East　ridge のラインをじっくり観察する。

当初予定では East　Face　下部の棚状地形をトラバースして標高を稼いでリッジに出るはずだったが、氷河の状態が良くないのでリッジ末端の最も美しいラインから取り付くという判断に。最も美しいが最も長い。飯を作ろうとガソリンストーブを使用しようとしたら小屋にガスコンロが付いていた。2005 年に小屋建てかえしたときにガスコンロ設置したらしい。ガソリン・ガスを大量に持っていた我々はさぞ面白く見えたことだろう。水は雨水を溜めたタンクがある。トイレは小屋から30mほど離れたところに2つ(結構汚い)。トイレまでは強風時のためにFixロープが張ってある。(強風だと吹き飛ばされるらしい)

明日の天気は明け方雨らしい。偵察で終わるかもねー、と話す。起床の判断は難しい。何せお初の山域ですから。

1900 無線交信。よく分からない英語・訛りが強い上に雑音。本場のNZ人達も必死で聞いている感じ。明日は一応狙いに行く。登れたら登る。

12/30　Plateau　Hut→Mt.Cook　Eastridge 取り付き付近まで→ガス・雨で引き返す

0200 起床ミューズリー食って出発。天気は良い。朝方は雨の予報だったが…。0330 出発。何故か時間がかかりすぎてしまう。便がでてないのが気になる。時々雪崩か落石の音が聞こえる。Linda　glacier からだろうか。クレバスをコンテで歩きながら越える。だんだん濃い霧になってきた。とりあえずアプローチの確認だけでも、と思いいけるところまで行く。(天気予報は良くないので期待はせずに出発。予報通りガスってきた)2Hr 後引き返す。Eastridge末端のチョイ手前。あわよくば登ってやろうと思ったが残念だ。何度かガス晴れるまで待機もしたが引き返す。取り付きまでは問題なく行けそうなことが分かった。帰りは 1.5hr で小屋まで戻る。ガイド軍団がお湯を沸かしてくれていたのでお茶を飲み、飯を食らう。今日は誰も行動無し。ガイドパーティー(ガイド3：クライアント3)が近くのグレイシャードームのクレバスで練習している。1500～1700 まで Aoni ともう一度ルート・作戦検討する。1900 無線交信まで横になる。ロシアパーティーがフライアウトしたいらしいがヘリは来ないらしい。ひどいガスだ。時折 Cook は見えるが、長くても2～3分ほどで姿は隠れてしまう。ロシアパーティー5 人は Linda から登ろうとしたが天気が悪く、あと誰かが怪我したので断念したらしい。誰でも登れるわけではないらしい。1900 無線交信。今夜明日明後日の天気を言っているが…部分部分は聞き取れるがはっきりしない。ガイドの一人に改めて聞いてみる。明日は良いらしい。再 Attack だ。

12/31～1/1　PlateauHut→Eastridge→Mt.cook 頂上→Linda　Glacier→PlateauHut

0000 起床のつもりが 0040 起床。寝坊だ。0130 出発。雪の状態は硬くて埋まらないので歩きやすくて良いが、反面滑落が怖いとも言える。1hr で昨日の最高到達点まで、0310 に Cineramacol(リッジ末端のコル)横の雪壁基部へ。暗くてよく分からないがラインは昨日確認済みなので現在地は頭の中でほぼ正確に照合できる。急斜面もクレバスゴチャゴチャなので大阪方式コンテで雪壁を登り始める。小屋からはわからなかったがクレバス一つ一つがデカイ。つながっているところ、またげそうなところを探しながら登る。一昨日から望遠鏡でチェックしていた段差は、段差ではなく乗り越えられない大きなクレバスだとわかりつながっているところを探す。結構大変。肩がらみ・コンテ・同時登攀の連続。気が抜けない。そして上から何か落ちてきそうなので早くこの一帯を抜けたい。薄明るくなってきたところでリッジのグサボロ岩に出る。0510　岩に取り付く。まずは aoni から。Eastridge はグサボロ岩登攀と雪壁とアイスで構成されている。リッジ南面は Hard なアイスだ。しかも表面は硬い雪でカバーされており足が滑る。蹴りこむのも大変。蹴りこまないともれなくスリップ。全ピ

ッチビレーすると時間がかかるのでダブルロープを60mいっぱい伸ばして、2人の間にランニングをいくつかはさんでの同時登攀がメインとなった。難しそうで先行きが分からないところはビレー。ナイフリッジは比較的Easyなところは同時登攀。リッジ上のグサボロ岩や北面の雪壁、南面のアイスなどのミックス。テクニカルではないが長い、難しくはないが我々は初めてのNZ・Mt.Cook なので雪・岩・氷の状態がよく分からないので少しでも怪しいと思ったらロープを出す。ハングしたグサボロの凹角や結構おもしろいスラブなどもあった。午後になると気温が上がり雪が腐り始め、雪壁やナイフリッジなどは埋まって進むのが疲れる。Aoni は疲れが残っているらしくペースがあがらない。c2900 で息が上がっているのがわかる。「高度障害じゃない？」と聞くと「そうかも」と。c3000～3100 までは長いナイフリッジ。それを終えるとc3600 までアイス時々ナイフリッジ。とっても長い。大三も 3200 から息が乱れ始めているのに気がつく。軽い高度障害と思われる。アイス帯に入っても時間もないし 3rd くらいなので同時登攀。しかしなかなか着かない。すぐ近くに見えているところですらなかなか着かない。ロープ1ピッチで十分かな一、と思ったところは大体3ピッチフルに使う。山がデカイ。主稜上には2200着。 もう明るいうちにサミットロックをラッペルするのは無理。(下山でラッペルポイント探すのは難しいので明るいうちになんとかしたかった)と判断し「確実に安全に行こう」と確認。とりあえずお互い疲れているのと、寒さを感じるのでツェルトに包まってジェットボイルでお湯を沸かして飲む。集中力を回復させたい。稜線上もアップダウンのあるナイフリッジが続くのだ。本当に気が抜けない。集中力を回復させたところで出発。稜線上ははじめはランニングを取りつつ、同時登攀で行くが相手は横に伸びているリッジ。小さなエビのシッポとロープに摩擦が発生してロープが非常に重たい。あとランニングも取るのに時間がかかる(40cm くらいの硬い雪がアイスの上に乗っている、スノーバーはきかないし、スクリューを打つためには結構掘らなければならない)。そういうわけで再度話し合いロープなしのフリーで行くことにする。左手側はスリップしたら地獄まで真っ逆さまな急斜面。硬くしまった雪で怖い。右手は真っ暗闇だ。スッパリと切れ落ちている。強風が吹いたらおしまいだ。と思ったら突風もたまに吹くのでヒヤリとする。それにしても遠い。ひどく。途中再度ツェルトをかぶりお湯を飲む。小休止すると集中力が戻る感じがして良い。Middle peak には 2300 着。もう疲れた。High peak はカットしようと思ったが(主稜線に着いた時点では疲れても行くよ！と aoni に言っていたのだが)、いつの間にか稜上を忠実にトラバースしているうちに High peak を踏んだ。さっきのロープ出すかどうか迷った急登がそうだったのか、と思う。残念なことに写真もなにも撮れなかった。Linda Glacier 側の稜線末端のサミッリッジに着く。そこから少し降りて風が避けられるところで再びお湯を作る。朝方なのでひどく眠い。眠り

こけてしまうと、そのまま滑落してしまうのでアックスを雪面に刺し、それをセルフビレーをとる。貧弱だが、これが最善策と言える。再び歩き出し、クレバスをクライムダウンし懸垂下降地点のサミットロック付近に着くサミットリッジ～Linda Glacier はノーマルルートなのでトレースがあるだろうと思っていたら、トレースを見失う。情報では残置スリングがたくさんあるところから2P の懸垂、とのことだったが暗くて見つからない。２手に分かれて１時間半ほど歩き回り探したら aoni が発見した。とても精神的に疲れた。もう夜明けが近い薄明るくなってきた。Aoni－dzの順で懸垂する。１P目、aoni 降りるもなかなか次のラッペル地点を発見できず時間がかかる。テキトーに懸垂するとセラックの上や、弾劾絶壁の上に出てしまったり、避けようのないクレバス地帯に出てしまうので気は抜けない。2P 目の懸垂も aoni－dzの順で。aoni がラッペルして次のポイントまでいっているあいだにdzは少し眠りこけてしまう。（15分ほど)起きると丁度 aoni が下についたらしい。セルフビレーにぶら下がったまま突然寝てしまった。疲労するとこんな感じなのか、恐ろしい。少し元気になったが…。あとは3rdくらいの岩場をクライムダウンして Linda 氷河に降りる。もう昼のような明るさ、でもココからがまた核心。最もdangerousなパート。「Gun barrel」という巨大セラック下を通過しなければならないのだ。本当に巨大なセラック、ビルの何階立て分って感じでそそり立つ。セラック直下はクレバスもあるが一刻も早く通過するためロープを解いて半ばダッシュ。事実我々が通過する直前にもビルのようなセラックが崩壊し氷河上がデブリだらけになった。谷の中に轟音が響く。「いやー、あれ凄ぇなー」と苦笑い。全身にビリビリくる緊張感だ。なんとか無事通過して、そのあとはひたすら歩く。PlateauHut が見え出すとひどくうれしいが氷河を右へ左へかわしていかなければならないので見た目以上に時間がかかる。雪も腐ってきてズブズブ埋まるので非常に疲れる。氷河にかかった細いスノーブリッジなんかは今にも崩壊しそうで緊張する。 やっと PlateauHut に着くと大勢の人々が拍手で迎えてくれた。どうやら昨夜頂上付近でヘッドランプが動いていて我々のことが丸見えだったそうだ。皆が水やビールを持ってきてくれてかなり嬉しい。同じ苦しみや怖さを知っているクライマーからの祝福は本当に嬉しい。「お前ら体小さいのにスゲーな」とか「ビバークしたのか」とか、ガイドも「頂上近くのアイスは長かったろう」とか。「成功したけど思っていたより時間がかかってしまった」と答えると「大変なルートだから、ただBig Dayなだけだぜ」とガイドのガリレオが言ってくれる。Hut に入り飯を作り食う。36時間行動だった今夜はよく眠れそうだ。とりあえず、メインの１本は終わった。ウォーミングアップのつもりがアップアップだ。Grade4 でこれだから grade6 の Mt.Tasman、BalfourFace とはどんな感じだろう。覚悟は出来ているし、ワクワクしている。取り合えず飯を作って食う。このまま寝たら体重が減ってしまい、勿体無いので。

1/2　PlateauHut　rest　day

さすがに今日は休む。小屋近くの岩を掘り下げてボルダリングする。V2 くらいまでの課題を5本くらい設定。明日は天気がが良いのでガイドの一人に「天気いいし、山行けば」と言われるが Aoni の疲労と足指の凍傷の調子が良くないので明日もレストとする。体勢が整ってからではないと BalfourFace は狙えない。1900 無線交信、1/4 の明後日から荒れるらしい。ということは明日が数少ないチャンスになるかも。この先天候は保証されているわけではない。一瞬二人ともどうするか迷うが、明日はやはりレストと決め込み、酒を飲む。でも Mt.Dixon 偵察しようということに。Balfour に時間的にいけなくなったときに Dixon、central　Gully というプランもある。peak にダイレクトに突き上げていて良さそうだ。ガイドによるとアプローチのクレバスの状態はすこぶる悪いらしい。

1/3　Mt.Dixon　アプローチ偵察に。

0400 に起床して Dixon 偵察へ。Dixon　Southridge 取り付き間までは1時間、メッチャ近い。そこから Westface の Central　Gully を目指す。クレバスが繋がっているどうか不明な部分が望遠鏡で見たときに3箇所くらいあった。1箇所目は問題なく。2箇所目はクレバスが開いていて、中にデブリが詰まっている。一旦5mほどバックステップで降りて15mほどのバーティカルな雪壁を登る。グラニュー糖のグサグサ雪で2回ほどずり落ちながら登る。バイルは雪の中にシャフトごとねじ込んで足は崩れる前に騙し騙し登る。3箇所目はクレバス見事に Open。いけそうではあるが、その先にも何かあるような予感。陽も高くなり雪もボロでセラック崩壊、雪崩れの危険も高くなり体に嫌な予感が走る。このアプローチは危険だ、という判断をして引き返す。先ほどの雪壁はボラードで懸垂する。グサボロで怖い。帰りは Eastridge の Descent を確認。小屋に帰るとガイドのガリレオが「どうだった、クレバス開いていたか？」と「ダメだった、Westface はあきらめる、Southridge にするよ」と言うと、「Southridge もいいラインだ」とのこと。いろいろルートのアドバイスを聞く。見てくれ怖いし、ぶっきらぼうな感じだけどいいやつだ。スパッツとズボンが破けたのでチクチク縫う。aoni と「(山で)飯作ったのに文句言われると腹立つよね」と意見一致する。天気予報、よく聞こえないのでガイドに聞く。夕方シルバーホーン山から2人降りてきているのが見える、クレバス地獄で相当迷っている。彼らは今夜 Biby だろう。

1/4　PlateauHut で停滞

今夜から天気が荒れるので皆 Hut からいなくなる。若者４名は Walkout、ガイドと客はヘリでフライアウト。PlateauHut は我々二人だけになった。Hut フード(皆が小屋に置いていくあまったフード)もいっぱいになった。昨日のシルバーホーン２人組みはまだ降りてこないので心配だったが、1600 ごろ降りてきた。たいして疲れてないように見える。やはり外人は体力あるのだろうか。彼らは FoxGlacier から縦走してきた。かっこいいね。夕飯を食い交信に備える、がシルバーホーンから降りてきた Mike と Jamie に交信を任せる。無線は非常に訛りが強く雑音もあり分かりにくい。昨日の偵察した氷河はデブリの埋まってしまっている。コワイね。

1/5　PlateauHut で停滞

くもり。起きると風の音がビュービュー。0600 起きてミューズリーを食いまた寝る。1900 無線交信。明日は昼から雨だらしい。天気微妙だが、行けるところまで Dixon 攻めることにする。明日決行!

1/6　PlateauHut で停滞

0200 起床。雨・風。コレでは出発できない。0330 まで様子を見ようともうひと眠り。0330 になるとさらに悪化。中止を決定。0700 起きても天気は相変わらず。中止。今日は中止。将棋を紙とペンで作る。負けたほうが歌う。でも結局２人で歌いまくる。あとで外人 2 人も歌いまくる。1900 無線交交信。1/7 は夕方より雨。1/8 は fine。となり、明日未明より Dixon 取り付こうかと提案するが、aoni の感じは帰りのヘリが飛ぶかどうか気になるらしい。「気分的にどうなのか」と聞いてみると、1/8 以降の天気でヘリが飛ぶかどうか気になっているようだ。そんな中 Attack するのも事故の原因になるので 1/7 に下山することにする。残念だがまだ一回目だ。またNZは来られる。夜は Jamie の誕生日祝い(1/7 が誕生日)をし、スコッチ３0ml ずつと余った行動食とリンゴで歌いまくる。楽しい夜だ。

1/7　PlateauHut→Mt.Cook　village へ下山　→Wanaka の岩場へ

Mike と Jamie を見送り 0900 に無線でヘリを呼ぶ。1130 ヘリが来て 10 日間滞在したPlateauhutをあとにする。次回はWalkin,Walkoutしたい。いい山だったが、今回は偵察みたいなもんだ。まだ少しさわっただけにすぎない。満足はしてない。村に着いたあとはDOCに下山届けを出し一路 Wanaka、ホスピタルフラットの岩場でロッククライミング。このあとは 1/10 の Aoni 出国までロッククライミングツアーになった。

総括：今回のクライミングの達成率は 50%。メインである Mt.Cook　Eastridge は達成できたものの、Mt.Tasman　Balfourface　には届かず。原因としては登攀にかける日数が足りないというのがある。ロープの出す出さないの判断が難しかったが、その山域に慣れることが判断を難しくさせたといえる。スピードと安全の線引きは常に難しいものだ。

次回行く人にアドバイス：体力と耐久力をつけて行くことが大事。

その他：

※　ニュージーランド出国時に預け荷物の MSR ガソリンボトルとビーコンが引っかかり空港地下の堅牢な個室に呼ばれる(連行される)。なんだかエックス線検査で見ると時限爆弾っぽく見えたらしい。検査の結果、問題なし。

※2　成田で SkyMark 航空で MSR ボトル引っかかる。ガソリンの匂いは全くしないが、「こういうものは多分ダメです、飛行機に乗せていいかどうかは判断できません」との航空会社の一点張りでヤマトで送る羽目に。「大丈夫だから検査してよ」というと「検査の方法は知らないんです」との驚きの返答。日本で引っかかったのは初めてだし、荷物として認めてもらえないのも初だ。あのテロに厳しいアメリカでさえ問題なかったのに。出発時間が迫っているので妥協して飛行機に乗った。もう2度と乗らないクソったれ Skymark、早くブッ潰れろ。
オイシーもの。

①ミンスパイ：肉パイ。でもdzはチキン系のパイが好きだった。aoni は fish 系が良いと。３～５NZD
②エナエジードリンク V：大好きです。カフェインたっぷり。２本飲むと腹痛になる。500mlで３～４NZD。
③ヘーゼルナッツチョコクリーム：パンに塗るともう止まらない。500gで7NZD　くらい。
④OSMパワーバー：One　Square　meal　という会社から出ている。チョコ味がオススメ。行動食にも Good！

NZのロッククライミング事情についてはまた今度。